

## 別記様式

## 議 事 録

会議の名称	第7回 岩倉市公共施設再配置計画検討委員会
開催日時	平成30年3月27日(火) 10時00分から12時00分まで
開催場所	市役所7階 第1委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	出席委員：秀島委員長、木本副委員長、大野委員、伊藤委員、渡辺委員、櫻井委員、水越委員、平松委員、井上委員、増田委員 欠席委員：なし 説明者：建設部長、教育こども未来部長、都市整備課長、学校教育課長、都市整備課営繕グループ長及び係、学校教育課学校教育グループ長及び係 コンサルタント：中央コンサルタンツ
会議の議題	(1) 学校施設長寿命化計画(案)のパブリックコメントの実施結果について (2) 公共施設再配置計画策定に係るワークショップの実施結果について (3) 中性化試験の概要と実施結果について (4) 施設ごとの再配置方針について
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他( )
会議に提出された資料の名称	資料1 岩倉市学校施設長寿命化計画(案) 資料2 パブリックコメントにおける市民からの主な意見 資料3 ワークショップ参加者からの主な意見 資料4 中性化試験の結果について 資料5 施設ごとの再配置方針について
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	9人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

建設部長よりあいさつがされた。

2 議事

（1） 学校施設長寿命化計画（案）のパブリックコメントの実施結果について

資料1「岩倉市学校施設長寿命化計画（案）」及び資料2「パブリックコメントにおける市民からの主な意見」を基に事務局より説明。

委員 長：パブリックコメント後に修正した内容を見る機会はあるか。

事務局：今年度策定のため見せる機会はないが、次回委員会で完成版を提示する。

委員：今後5年間の実施計画について、機械設備の評価がAの施設を優先して大規模改修するとした考えを聞かせてほしい。

事務局：H26年度の調査は目視調査のため、給排水管の劣化程度は健全としたが、経年劣化により部分修繕を何度か行っている実態を踏まえ、判定を付け直したいと考えている。

（2） 公共施設再配置計画策定に係るワークショップの実施結果について

資料3「ワークショップ参加者からの主な意見」を基に事務局より説明

委員：希望の家は残す、児童館は廃止するという意見が目立つが、お題はどのように出したのか。

事務局：廃止を検討中というような予備知識は入れずに、今後の施設のあり方について純粋な意見を伺った。希望の家は利用した経験のある子が多く、廃止という意見にはならなかった。児童館は廃止・複合化といった現実的な意見を頂けたと感じている。これまで大人の意見ばかりを聞いてきたが、今回のワークショップを通じて子供の貴重な意見を聞くことができたため、今後は計画に反映していきたいと考えている。

委員：若い力を借りながら、色々と工夫していけば、稼働率も向上すると考えられる。

委員：天体望遠鏡の教室はPRしているのか。

事務局：天体望遠鏡は教室という形では行っていない。焼物の釜を利用した教室は開催している。他にはデイキャンプ、大学のボランティアサークルによる小学生の宿泊体験などを行っている。

委員：図書館では色々な講座の開催を周知しているが、希望の家はそもそもRPが足りないと考えられる。

事務局：指定管理として広報はしているが、実態としてはあまり効果がない状況である。

委員：他市の中には、天体望遠鏡を積極的にPRしているところもあるように、希

望の家は立地が悪いため、効果が出るまでバスを運行するなどして、なおさらPRすることが重要であると考えられる。また、駐車場の確保にも不便さを感じている。

事務局：デイキャンプは学校を通じてPRした結果、20人が参加した。

### (3) 中性化試験の概要と実施結果について

資料4「中性化試験の概要と実施結果について」を基に事務局より説明

委員：東町会館と保健センターにおいて、中性化深さが特筆した理由が分かれば教えてほしい。また、学校施設長寿命化計画に記載の圧縮強度について、ばらつきがある理由も分かれば教えてほしい。

事務局：一概には言えないが、石膏ボード等の仕上材の有無や利用環境の違いと考えられる。また、圧縮強度については、基本的に経年により強度は低下しないため、初期強度、施工時の品質などが影響していると考えられる。

### (4) 施設ごとの再配置方針について

資料5「施設ごとの再配置方針について」を基に事務局より説明

(総合体育文化センターについて)

委員：駐車場不足の観点から、総合体育文化センターは、医療施設との複合化をイメージする。

事務局：昨年度のモデルケースの検討では、そのような方針とした。大規模改修を実施し、他施設と複合化する方針としてよいか。

全員：問題なし。

委員：健康増進のためにも、スポーツ施設と医療施設の集約化により、魅力向上を図って頂きたい。

(学校給食センターについて)

委員：学校給食センターは開業したばかりなので検討の余地がない。

全員：問題なし。

(児童館について)

副委員長：第二・六・七児童館の廃止のイメージはどのようになっているのか。建物の撤去と土地の売却を行うのか。

事務局：廃止については、機能の存続を図りながら慎重に検討していく。

委員：施設を廃止する際には地域間のバランスに配慮し、足並みをそろえる必要があるのではないかと。高校生のワークショップでもあったように、児童館としての機能だけではなく、様々な機能を付加して欲しい。

委員：学童保育を小学校に複合化した場合、駐車場を確保できるのか。

事務局：北小と南小は厳しいが、曾野小は教員用駐車場と同様に田畑を借上げて利用すれば可能と思われる。また、例えばプールを廃止して駐車場にする考えもある。

委員：北小は、校門の前で立ち往生するケースが現状でも起きており、いつも車の利用は避けてほしいと言われる。

委員：五条川小と南小は厳しいが、北小は東側の木を植えている箇所を大規模に改修すれば、駐車場のスペースを作り出せると考えられる。

委員：岩倉市として、プールを廃止する方針ができれば、検討の幅が広がると考えられる。

委員：東小は北館の裏側に駐車場ができたが、プールとの隙間が狭いため、プールが廃止になればこの問題は解消する。また、東小の南館3階はほとんど利用されていないが、3階だけ解体するということはできるのか。

委員：増築箇所なので解体できると思われる。

事務局：棟毎およびプールも含めて、今後検討していきたい。

委員長：モデルケース等を通じて、今後はより具体的に進めていきたい。

#### （地域交流センターについて）

委員長：施設がまだ新しいため、大規模改修という方針で良いか。

全員：問題なし。

#### （子ども発達支援施設あゆみの家について）

委員：外部委託の専門性とはどういうことか。

事務局：障害を持った子が親子で通う療育や音楽療法等について、保育士や、場合によっては福祉的な専門家に委託することであり、平行して通園している方もいる状況である。

#### （高齢者福祉施設について）

委員：ふれあいセンターは、イベント時の駐車場が不足しているため、社会福祉協議会の事務所だけ総合体育文化センターに移転してはどうか。

委員：これまでの話からすると、駐車場の確保が複合化の有無を左右していると考えられる。

委員：保健センターをはじめ、バスを運行するなど、ユニバーサルデザインとして交通手段も検討してほしい。

委員長：再配置計画に盛り込むことは可能か。

事務局：可能である。

委員：駐車場やプールを建物の中に設置するなど、敷地を生む出す工夫をしてほしい。

副委員長：アピタの中に公共施設を入れれば、駐車場の問題は解消できると考えられる。

委員長：民間業者との連携は、改築の際に足並みがそろわないことが留意点として考えられる。

委員：アピタは市の中心拠点に設置しているため、子どもに悪影響を与えるような施設が入ってこないようにしてほしい。

（医療施設・保健施設について）

委員長：総合体育文化センターで話があったように、休日急病診療所と保健センターは、複合化を方針とすることで問題ないか。

全員：問題なし。

（庁舎等について）

委員長：熊本地震の時のように、庁舎は災害時に避難所として機能するため、有効に活用していきたい。

委員：公開コンペで良い庁舎ができたと考えている。その当時、駐車場の有料化も一時期問題となったが、現在の市としての考えはどうか教えてほしい。

事務局：駐車場の有料化は、議会でも色々と議論があった。確定申告の際には庁舎の中で会議をやらないような取組みや、無断駐車に対してもパトロールで取り締まっているため、現段階では支障なく様子見の状況である。

委員：荷物の出し入れが不便である。もう少し駐車場があってもよい。

（消防施設について）

委員：防災コミュニティセンターの機能自体は残さないのか。新しい施設なので他施設との複合化や有効利用を検討できないか。

事務局：大半が大山寺の集会施設として使用されているため、他の公会堂と同様に地域に譲渡とし、地域毎の偏りをなくしたいと考えている。

（その他行政系施設（清掃事務所）について）

委員長：外部委託先の目途はあるのか。

事務局：現段階では目途は立っていないが、外部委託も視野に入れて検討していきたいと考えている。

（公営住宅について）

委員：何歳ぐらいの人が住んでいるのか。

事務局：高齢者が多く、毎年度、退去される度に入居という状態で、常に満室状態である。

副委員長：敷地は更地にするつもりか。

事務局：五条川団地のように施設譲渡を民間に打診したが、現実的に厳しいと言っている。

委員：どういう人が入居できるのか。

事務局：公営住宅は、UR 団地とは異なり、所得による制限があり、選考委員会で意見を聞いて決めている。

事務局：公営住宅の廃止に関しては、来年度モデルケースの中で検討していきたいと考えている。

(その他について)

委員：サクランドの駐車場は、景観の観点からも、西春駅のように地下駐車場にしてはどうか。コストの問題はあるが、大規模改修時には駅前のスリム化と駐車場の拡大を図ってほしい。

事務局：地下駐車場は以前検討したがコストの面で難しいという結論に至った。駅周辺の駐車場は現在無料であるが、受益者負担の観点から、有料化を検討することが、景観の観点からも重要と考えている。